

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3307		
科目名	企業コンプライアンス論		
担当教員	指田 朝久		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 3		
講義室	1501	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 学識・専門技能 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる D P 3－G 状況把握力・判断力 自らの置かれた状況、および自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 D P 4－I 理解力・分析力 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取舍選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1学識と専門技能:50%、 G1状況把握:25%、 I1理解・分析と読解:15%、 I2量的分析:10%		
教員の実務経験	経験した実務の内容；民間企業のコンサルティング会社20年以上の経験の中で、企業および自治体などのリスクマネジメント教育およびコンプライアンス教育や監査を多数実施しています。また所属している企業自身の従業員教育および監査責任者として監査を実施しています。これらの実務経験を踏まえて毎回の講義資料の準備およびワークショップ方式の演習を実施していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	授業概要 現在、企業活動においても様々な面で法令遵守の徹底が求められています。そのため、コンプライアンスに関する部署が設置されてきています。企業活動においてどのような問題が発生し、その問題をどのように解決していけばよいのか、企業の危機管理の観点から、遵守すべき法制度とコンプライアンスの制度と運営の実態について学んでいきます。 授業形態は講義と演習（ワークショップ）形式により行います。 なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 （キーワード）コンプライアンス・内部統制・不祥事対応		
授業の趣旨	■ 副題 組織犯罪に巻き込まれないためにひとりひとりが取組むこと ■ 授業の目的 ①企業のコンプライアンスの実践に関する具体的な法律、規制の学識・専門技能を身に着けます。 ②具体的な事例において法律や社内規則などの適応に関する状況把握力や判断力を身に着けます。		

	③実際の事件を読み解き再発防止に向けた理解力や分析力を身に着けます。 ■授業のポイント ①教科書により、最新の企業のコンプライアンスの中心テーマを理解します。 ②事例分析のワークショップにより、実際の企業の不祥事を分析し、なぜこのような事態になったのか、どうすれば防ぐことができたのかを理解します。								
総合到達目標	■組織活動を行う上で、法令や規則などを遵守する必要性を説明できる。 ■実際の事件について分析し問題点や課題を示し対応策の説明ができる。 ■組織活動の中に身を置く中で、様々なコンプライアンスに関する事象が発生した場合に状況を把握し判断の基礎を提示することができる。 ・日本のコンプライアンスを促進する重要な法律につき説明できる。（第2回～第4回、8回、12回、15回） ・法令や規則などを順守する必要性を説明できる（第5回、第14、15回） ・組織活動おもに企業におけるコンプライアンス促進体制につき説明できる（第9、10回、15回） ・事例の分析を行い課題の提示や対応策の説明が出来る（第6、7、11回） ・事件発生後の対応判断の基礎を説明できる（第13～15回）								
成績評価方法	（成績評価手段）成績は次の①毎回のリアクションペーパーと②レポート（課題）、③レポート（理解度）の合計で評価を行う。 ①毎回のリアクションペーパー（30%）；I 1, I 2 （評価の観点）毎回の課題に対する回答の理解度および各自の考えを示せるか、課題に回答できていない場合は得点が認められない。 （フィードバック方法）次回授業の冒頭で解説を行う、 ②レポート(課題)（20%）；G （評価の観点）グループディスカッション（ワークショップ）に向け授業の内容を踏まえた自分の考え方を示せるか、また生徒間同士で分かりやすく理解できる内容となっているか。単位認定にあたってレポート提出は必修。また期限に遅れた場合は得点は5点の減点となる。 （フィードバック方法）事例分析の授業の中で解説を行う、 ③レポート（理解度）（1回25点×2回＝50%）；E （評価の観点）課題に対して当該単元の理解度を図るため記述式の試験を実施する。単位認定にあたってレポート提出は必修。 （フィードバック方法）授業内で標準回答を解説する。 なお、1回目のレポート（理解度）で12点以下の生徒には理解を深めるために1回目の理解度の復習のための追加レポートと2回目のレポート（理解度）前の事前追加レポートを個別に指示し、この2回の追加レポートの提出が必修となる。なお、2回目のレポート（理解度）前の事前追加レポートはその他の生徒も任意に受けることができる。これらの追加レポートは最終合否判定にあたっての加点対象とする。								
履修条件	必須条件はなし。								
履修上の注意点	予習を必ず実施することが必要です。特に事例分析はグループディスカッションのワークショップを行いますので、事前に配付された事例を分析し授業前までに各自レポート提出が必須となっているので注意してください。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ コンプライアンスとは何か、昨今の不祥事の事例、言葉の定義、授業のガイダンス ②授業概要 コンプライアンスに関する事件や事故を知り、コンプライアンスの言葉の定義を学ぶ。また、不祥事に個人の利益を求めるものと組織の利益を求めるものがあることを理解し説明できる。（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書のまえがきを読む、またネットで企業の不祥事を閲覧する。（120分） ④復習 コンプライアンスおよび企業倫理について整理する（120分） </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 何故コンプライアンスが求められるのか、日本政府の行政手法の転換 ②授業概要 古くから企業不祥事は繰り返されていたが、なぜここに来てコンプライアンスが求められるようになってきたのかを理解し、背景に日本政府の小さな政府に伴う事後チェック重視への転換があったことを説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第1章なぜコンプライアンスが求められるのかー1 日本政府による行政手法の転換」を読んでおくこと（p14-21）（120分） ④復習 小さな政府でかつ行政の事後チェックを可能とするために企業に求められたものを整理する（120分） </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 内部統制システムの構築を促す四つの仕掛け；（1）公益通報者保護法と（2）会社法における内部統制 ②授業概要 4つの仕掛けのうち公益通報者保護法と会社法における内部統制システムの2つについて説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ コンプライアンスとは何か、昨今の不祥事の事例、言葉の定義、授業のガイダンス ②授業概要 コンプライアンスに関する事件や事故を知り、コンプライアンスの言葉の定義を学ぶ。また、不祥事に個人の利益を求めるものと組織の利益を求めるものがあることを理解し説明できる。（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書のまえがきを読む、またネットで企業の不祥事を閲覧する。（120分） ④復習 コンプライアンスおよび企業倫理について整理する（120分）	2	①授業テーマ 何故コンプライアンスが求められるのか、日本政府の行政手法の転換 ②授業概要 古くから企業不祥事は繰り返されていたが、なぜここに来てコンプライアンスが求められるようになってきたのかを理解し、背景に日本政府の小さな政府に伴う事後チェック重視への転換があったことを説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第1章なぜコンプライアンスが求められるのかー1 日本政府による行政手法の転換」を読んでおくこと（p14-21）（120分） ④復習 小さな政府でかつ行政の事後チェックを可能とするために企業に求められたものを整理する（120分）	3	①授業テーマ 内部統制システムの構築を促す四つの仕掛け；（1）公益通報者保護法と（2）会社法における内部統制 ②授業概要 4つの仕掛けのうち公益通報者保護法と会社法における内部統制システムの2つについて説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。
回	内容								
1	①授業テーマ コンプライアンスとは何か、昨今の不祥事の事例、言葉の定義、授業のガイダンス ②授業概要 コンプライアンスに関する事件や事故を知り、コンプライアンスの言葉の定義を学ぶ。また、不祥事に個人の利益を求めるものと組織の利益を求めるものがあることを理解し説明できる。（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書のまえがきを読む、またネットで企業の不祥事を閲覧する。（120分） ④復習 コンプライアンスおよび企業倫理について整理する（120分）								
2	①授業テーマ 何故コンプライアンスが求められるのか、日本政府の行政手法の転換 ②授業概要 古くから企業不祥事は繰り返されていたが、なぜここに来てコンプライアンスが求められるようになってきたのかを理解し、背景に日本政府の小さな政府に伴う事後チェック重視への転換があったことを説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第1章なぜコンプライアンスが求められるのかー1 日本政府による行政手法の転換」を読んでおくこと（p14-21）（120分） ④復習 小さな政府でかつ行政の事後チェックを可能とするために企業に求められたものを整理する（120分）								
3	①授業テーマ 内部統制システムの構築を促す四つの仕掛け；（1）公益通報者保護法と（2）会社法における内部統制 ②授業概要 4つの仕掛けのうち公益通報者保護法と会社法における内部統制システムの2つについて説明できるようになる（E1）教員の実務経験を踏まえて講義する。								

	③予習 教科書「第1章 2 内部統制システムの構築を促す四つの仕掛け（1）公益通報者保護法における抵触要件、（2）会社法における内部統制システムの構築義務」を読んでおくこと（p21-40）（120分） ④復習 公益通報者保護法と内部統制システムにつき整理する（120分）
4	①授業テーマ (3)金融商品取引法におけるサンクションと（4）独占禁止法におけるリニエンシー制度 ②授業概要 金融商品取引法におけるサンクション（刑事罰、行政処分、損害賠償）と独占禁止法におけるリニエンシー制度（自首による課徴金減免制度）について説明できる（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第1章 2 内部統制システムの構築を促す四つの仕掛け（3）金融商品取引法におけるサンクション（4）独占禁止法におけるリニエンシー制度」を読んでおくこと(P41-56)（120分） ④復習 株主代表訴訟による歯止め策の効果や自首による課徴金が減額される制度につき整理する（120分）
5	①授業テーマ コンプライアンスを実践する本質的理由 ②授業概要 コンプライアンスを実践する本質的な理由に契約と信認の考え方があることを説明できるようにする。（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第1章 3 コンプライアンスを実践する本質的理由」を読んでおくこと（P57-74）（120分） ④復習 コンプライアンスを実践する本質的な理由を理解し、今まで授業で学習した4つの仕掛けのそれぞれがどこに位置づけられるのかについて整理する（120分）
6	①授業テーマ 事例分析1- 1 大規模食中毒対応の失敗と信頼回復の取組 ②授業概要 事前に配布してある教材を読み授業の前にレポートを提出する。授業では課題に対する各自の回答結果をもとにグループディスカッションを行い、意見交換を実施する。（G1,I1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 担当教員の実務経験を踏まえて、企業の不祥事の原因および防止対策などの詳細な解説を行う ③予習 事前配布されたケース（約10ページ超）を読み、設定された課題につきレポートをまとめ提出する（240分） ④復習 次週にむけ授業で行った意見交換をまとめておく（120分）
7	①授業テーマ 事例分析1- 2 大規模食中毒対応の失敗と信頼回復の取組（続き） ②授業概要 事前に配布してある教材を読み授業の前にレポートを提出する。授業では課題に対する各自の回答結果をもとにグループディスカッションを行い、意見交換を実施する。（G1,I2） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 担当教員の実務経験を踏まえて、企業の不祥事の原因および防止対策などの詳細な解説を行う ③予習 事前配布されたケース（約10ページ超）を読み、設定された課題につきレポートをまとめ提出する。特に全体概要図を作成する。（240分） ④復習 ケースを分析しコンプライアンスに関する課題として何が該当したのかを整理する。（120分）
8	①授業テーマ 授業内テスト- 1：コンプライアンスの必要性と4つの仕掛けの理解；解説付き ②授業概要 内部統制システム構築を促す4つの仕掛けが説明できること。およびコンプライアンスを実践する本質的理由について説明できることを確認する。また答案回収後本テストの狙いにつき解説する。（E1,G1,I1,I2） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 今まで学んだ教科書およびノートを復習し、ケーススタディを踏まえて理解しておく（120分） ④復習 試験の解説を振り返り今まで本授業で学んだことおよびテストで回答できなかったことにつき解説を理解し整理する（120分）
9	①授業テーマ iコンプライアンス体制のPDCA；方針、規定、権限、コミュニケーション、監査 ②授業概要 企業で実際にコンプライアンス体制を構築するためのPDCA（Plan-Do-Check-Act）継続的改善を説明できる。具体的には経営者によるコンプライアンス方針の策定、役職ごとの権限の付与、規定の策定、情報共有の仕組みであるコミュニケーションの方法、対策が定着しているかの点検と監査につき概略を説明できる（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第2章 どのような体制を敷いたらよいか 1 コンプライアンス文書の作成（p75--110）および3 コミュニケーションとモニタリング（p132-167）」を読んでおくこと（120分） ④復習 継続的改善の仕組みにつき整理する（120分）

10	①授業テーマ コンプライアンス教育；属人思考に対する取組の現状 ②授業概要 コンプライアンスの実践のためには経営者および従業員に対する教育が必須である。現時点の企業のコンプライアンス教育の教育訓練の概要につき説明できる。特に法や規則より上司の指示に従うことが正しいと考える属人思考の問題点につき説明できる。（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第2章2 コンプライアンス体制の構築と教育訓練（p111-p131）」を読んでおくこと。属人教育については配信する資料を事前に読んでおくこと。（120分） ④復習 組織犯罪につきものの属人思考についてと現在の教育についての弱点について整理する（120分）
11	①授業テーマ 事例分析2 銀行員の無断取引に起因する株主代表訴訟 ②授業概要 事前に配布してある教材を読み授業の前にレポートを提出する。授業では課題に対する各自の回答結果をもとにグループディスカッションを行い、意見交換を実施する。（G1,I1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 担当教員の実務経験を踏まえて、企業の不祥事の原因および防止対策などの詳細な解説を行う ③予習 事前配布されたケース（約10ページ超）を読み、設定された課題につきレポートをまとめ提出する。（240分） ④復習 p 3 6 の内部統制を企業に求めた判決がこのケーススタディのどのような事実に基づいているか、また何が問題であったのかにつき整理する（120分）
12	①授業テーマ コンプライアンス対応の実際；海外腐敗行為防止への取組 ②授業概要 海外進出をする日本企業が直面する海外法令と運用の実際において、どのように企業は従業員にコンプライアンスを実践させればよいか、反競争的行為と海外腐敗行為につきその具体的な考え方を説明できる。（E1,G1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第3章日本企業のグローバル課題とは」を読んでおくこと（p177-p214）（120分） ④復習 企業の従業員が直面するコンプライアンスの実務において企業（特に本社の統括部門）がどのような姿勢で対応すべきかについて整理する。教科書「第4章海外腐敗行為防止への取組とは」を読む（p215-p265）（120分）
13	①授業テーマ 事件発生時の対応と危機管理 ②授業概要 実際にコンプライアンス違反が発生した場合に企業はどのような対応を行えばよいのかについて説明できる（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書「第2章どのような体制を敷いたらよいのか3コミュニケーションとモニタリング（2）公表と事後対応(p144-154）」を読んでおくこと。2つのケーススタディを復習し事後対応についての問題点をまとめておくこと（120分） ④復習 事後対応を整理し2つのケースにつきどのように対処すべきであったのかにつきまとめる（120分）
14	①授業テーマ まとめ；企業の社会的責任C S Rとコンプライアンス、災害時・非常事態とコンプライアンス ②授業概要 企業コンプライアンス論の授業で学んだことの概要を説明できる。また災害発生時など人命に関わる非常事態などにおける規制緩和など、コンプライアンスと災害をどのように考えればよいかにつき説明できる（E1） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書をもう一度読み返しておくこと。（120分） ④復習 企業コンプライアンス論につき教科書に記載してある内容を実際のケースにあてはめて整理する。また災害時の規制緩和につき授業の内容を整理する。（120分）
15	①授業テーマ 授業内テスト2：総合テスト：解説付き ②授業概要 企業コンプライアンス論の全体につき理解度テストを行う。また答案回収後本テストの狙いにつき解説する。（E1,G1,I1,I2） 教員の実務経験を踏まえて講義する。 ③予習 教科書およびノートを復習し、ケーススタディを踏まえて理解しておくこと（240分） ④復習 試験の解説を振り返り今まで本授業で学んだことおよびテストで回答できなかったことにつき解説を理解し整理する（120分）
関連科目	企業統治と法（R M G T 2 3 5 3）
教科書	コンプライアンスの知識（第3版）；高巖著；日本経済新聞社；ISBN978-4-532-11381-0
参考書・参考URL	ケースブックあなたの組織を守る危機管理：危機管理研究会；ぎょうせい；ISBN978-4-324-09258-3

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】開講時に連絡する。【オフィスアワー】木曜日3限、それ以外の時間については、メールにて個別調整する。
研究比率	災害マネジメント（20%）、パブリックセキュリティ（20%）、グローバルセキュリティ（40%）、情報セキュリティ（20%）

